

# 2022 年度事業計画

2022 年 3 月 24 日

学校法人 富澤学園

## 学校法人富澤学園のミッションとビジョン

### <ミッション>

「敬・愛・信」の建学の精神の下で、人を敬い、愛し、信じる態度を持ち、人に敬われ、愛され、信じられる人間を育成する。

### <ビジョン>

○山形の地で、幼稚園教育、高等学校教育及び大学教育を相互に連携して実施して、人材育成を通して地域の発展に貢献し、県内唯一の総合学園としてのブランドを確立する。

○より良質な教育を提供することにより、保護者及び生徒・学生から選ばれる学校となる。

○経営の効率化を進め、財務基盤を安定させて、末永く存続できる学校法人となる。

「学校法人富澤学園第2期中長期計画（2020年3月27日制定）」から抜粋

## 【1】 法人本部の事業計画

### ○法人財務健全化の総仕上げ

2020年度から取り組みを開始した「経営健全化緊急対策」の最終年度であり、目標である「経常収支の黒字化」と「運用資産から外部負債を差し引いた額の黒字化と積み上げ」を必達する。

そのために、予算に基づいた経費の適正な支出管理を徹底し、コストを意識した効率的な経費支出を実現する。

2023年度以降の法人財務の更なる健全化確立のために、最重要課題である各校園の入学者確保対策の実効性と成果を検証し、必要となる対策の検討を行う。また、効果的な広報戦略の再検討や、現有資産活用等による事業収入増加の可能性を探る。支出面に於いては、大学新学科完成年度までの人員配置や事務合理化の進展等を見定めながら、定員充足率に見合った予算配分や学園全体としての適正な人員配置の見直しを実施する。

### ○総合学園としてのブランド力の強化

幼稚園、高等学校、短期大学及び四年制大学を擁する山形県内唯一の総合学園としての魅力や強みを活かし、法人本部が各校園と密接に連携して、ブランド力の強化に引き続き取り組む。

高校の校名変更により全校園が「東北文教大学」の名称を冠することで、学園内部に於いては一体感の醸成を図り、外部に対しては同じ建学の精神を持つ系列校であることを強くアピールしていく。

学園創立100周年記念事業各部会による事業計画の立案とその具現化に向けて、広報小委員会はマスメディアやホームページを活用し、ステークホルダーのみならず広く世間一般に周知すべく広報活動を推進していく。

### ○外部資金の獲得と経費の節減

各校園の特色を生かした教育・研究活動が十分に発揮できるように、補助金の積極的な獲得を目指していく。

昨年度より実施している寄付金募集事業については、ホームページに公開するとともに、創立100周年寄付金部会とも連携を図り、対象者の選定及び依頼時期をスケジュール化して推進していく。

経費については、引き続き法人全体で節減に取り組む。配分された管理予算の執行管理を徹底するとともに、施設整備については事業内容を十分に精査の上プライオリティを適切に判断し、予算を効率的に執行する。

### ○本部事務局の移転準備

学校法人を取り巻く環境が激変する中、経営の効率化を図るため、令和 5 年度中に本部事務局を大学建物内に移転する。

その準備として、移転先の改修工事設計・発注や各校園との業務負担の調整、資料整備等の準備を進める。

本部事務局移転の効果として、業務の効率化、大学・短大との連携強化、経費の削減等が見込まれる。

## 【2】 東北文教大学・東北文教大学短期大学部の事業計画

### ○不断の教育改革の取り組み

どこよりもあたたかい指導に基づく教育を行う大学を目指し、「きめ細かな教育体制」「個別指導の充実」「学びの成果の振り返り」「自己肯定感の醸成」などを指導の軸に、①学びの質保証と達成感の把握、②授業外学びの教育支援 ③正課外活動の充実、④退学者数や留年者数における少ない状況の維持に取り組む。

①については、学修成果等アンケートの実施、人間科学部における入学時アセスメントテストの実施、リメディアル科目の開講、全学に対する学修支援センターの活動、さらに2020年度から実施した「学修到達度シート」の配付を継続しつつ、各種アンケートの点検・評価の実施と「学修到達度シート」の自己点検・評価を軌道にのせる。

②については、学生のパソコン・インターネット環境整備の促進を図るとともに、学修支援用のための動画コンテンツの作成を促進する。③については、学生個々の大学生活へのモチベーションを高めるため、部活動やボランティア活動への金銭的支援と表彰制度を継続しつつ、各部局や連絡協議会等を活用し、学生生活に関する点検・評価の観点からインフラ的な要望を吸い上げ、ソフト的な要望には速やかに対応する。

④については、学生動向の把握及び学生面談や保護者面談を継続しつつ、増加傾向にある「合理的配慮」を要する学生に対しては、カウンセラーと協働で、個々の学生に応じた、また学科の特性に応じた支援方法で対応する。

### ○学科新設・改組による教育研究の充実・発展

昨年度スタートした「人間関係学科」と「現代福祉学科」は、入学定員確保に取り組むとともに、各学科の教育研究体制の構築を図る。従来の人間科学部「子ども教育学科」と短期大学部「子ども学科」は、それぞれの学科の特色を活かしながら教育研究の充実・発展を図る。また、人間科学部と短期大学部はともに学部全体の発展のための総合的な戦略を検討する。

短期大学部は、昨年度受審した認証評価で指摘された「向上・充実のための課題」を改善する。人間科学部は、短期大学部の認証評価を踏まえて、令和5年度に認証評価を受けるための準備をする。

昨年度設置された研究開発センターを核として、本学の特色を活かした研究開発に取り組むとともに、様々な外部資金獲得のための情報を収集し提供する。

### ○進路支援

就職に向け学生の意識を高め志望動機を明確化するため、「小学校教員職」「一般職」「保育専門職（保育・幼児教育）」「介護福祉専門職」など領域別に毎週開催している進路ガイダンスを継続する。人間関係学科については一部子ども教育学科と合同で行いな

がら独自のガイダンスを構築する。

例年実施している「企業研究会」「保育職就職セミナー」「福祉就職セミナー」を計画する。「企業研究会」については、大学・短大部の同時期合同開催を継続して計画する。

各種試験合格率の向上のため継続して進路支援センター、教職実践センター、学修支援センターが綿密な連携をして対応する。

大学院、3年次編入等進学希望者への個別支援を丁寧に行う。

#### ○富澤学園ブランド力向上の取り組み

「学生と教職員の距離の近さ」「学生一人ひとりを大切にする」などのメッセージを通して、本学の強みである「ていねいな教育・支援」について、対話的な高校訪問の手法を確立させ、引き続き発信していく。また、「地元進学の特長を伝える卒業生の事例」を紹介する場を増やすことで、地元へ貢献する学園のイメージ作りを進めていく。

#### ○定員充足率向上の取り組み

経営健全化対策で実施した入学者確保対策の取り組み内容の実効性と成果を検証し、必要となる対策の検討を行う。

また、新たに高校訪問等にあたる専任の担当者を配置し、各高校とのきめ細かな対話を進める体制を整えることで、入試広報の効果を上げていく。

大学は2022年度入学者選抜の結果を踏まえ、選抜方法の内容を適切に評価しつつ、より効果的な入試広報を進めることで定員を確保する。また、学部全体の魅力を発信し、新規志願者の開拓を目指す。

短期大学部は2022年度入学者選抜の結果を踏まえ、「現代福祉学科」は、引き続き新規志願者の発掘を目指したアプローチを積極的に展開する。「子ども学科」は、引き続き学科の特色である実習を核とした教育内容・方法をより効果的にアピールするとともに、前年度行えなかった「中学生対象保育ワークショップ」などの実施により、保育職の魅力を発信し、保育職を目指す生徒の発掘を行う。

#### ○教育環境の充実・整備

教育研究用備品等の充実を図るとともに、教育研究環境を継続して整備する。特に2022年度は、1・2号館外壁塗料に含まれるアスベスト封じ込め工事、6、7号館の空調設備更新工事を行う。

### 【3】 東北文教大学山形城北高等学校の事業計画

#### ○学校経営

勤務時間の管理については、業務の削減と効率化を進めるとともに、一年単位の変形労働時間制を導入し、休日の部活動については、NPO法人等外部化について検討する。校務分掌については、一人2分掌制を更に充実させるとともに、生徒の心身の健康保持や感染症、衛生管理等に組織的対応を行うため、「厚生課」を新たに設置する。

令和4年度入学生から同一のタブレットを持たせることになるので、教員には同じものを授業用として貸与するとともに、「脱USBメモリ」を進め、情報セキュリティの保持に努める。また、教員免許更新制の発展的解消を踏まえ、Eラーニング・オンライン研修システムを導入する。

持続可能な社会の実現に向け、教職員自らがSDGsを意識するとともに、光熱費の削減やペーパーレス化などコスト意識の徹底を図る。財政健全化を図りながらも学校課題を踏まえた予算の選択・集中を行い、教育の質を落とさない学校経営に努める。

#### ○教育方針

本校の『グランドデザイン』及び『教育理念・教育方針』に基づき、重点目標である「ICTを活用した個別最適な学びの提供」と「社会とつながる協働的な学びの実現」を達成するため、以下の5点に重点的に取り組む。

##### ① 普通科3コース及び特進科の充実

今年度より新学習指導要領による新しい教育課程が始まる。普通科では1年次においてコース混合のクラス編成とし、特進科では土曜日の授業を課外とし、部活動の参加も可能となる。そういった改革に対して万全の対応を図る。また、「Global exchange program」を継続して実施し、多様性の理解と自己啓発の機会を提供する。

##### ② ICTを活用した授業改善

現在、多くの教員がPCとプロジェクターを活用した授業を行い、全校集会等でも幅広く利用されている。今年度の入学生には一人一台のタブレットを持たせ、生徒と教師が相互にやり取りできる授業支援ソフトを導入し、授業改善に努めながら個別最適な学びを提供していく。

##### ③ 「総合的な探究の時間」の積極的取組

1学年8月～2学年7月はSDGsの17の開発目標に関するグループ研究、2学年8月～3学年7月は地域のヒト・モノ・コトに目を向けた個人の探究活動を行う。東北芸術工科大学企画構想学科の支援を受け、ふるさとを愛し、将来地域や社会に貢献しようとする態度を養うことを目標にしながら、社会とつながる協働的な学びを実践する。

##### ④ 多面的評価の実践

多面的評価については、教科会の充実など教員間で様々な情報を共有しながら実践し

ていく。年度途中は学習意欲の向上を目的に3観点をそれぞれ5段階で評価することとし、それに対応した教務支援システムを新たに導入する。

#### ⑤ 部活動及び特別活動の推進と校外活動の奨励

重点目標の一つである「社会とつながる協働的な学びの実現」については、学校行事の他、ホームルーム活動や生徒会活動などにその役割が期待される。SDGsの取組についてはまだまだ単発的で学校全体のものになっておらず、生徒会が中心になった具体的な取組が求められる。部活動については、どの部も熱心に活動し実績も挙げているが、更なるレベルアップを目指す。また、校外活動については、新規に特別認定奨学生を採用したことから、様々な施設や団体との連携を強化していく。

#### ○進路支援

コロナ禍にあつて、オープンキャンパス等、様々な体験活動が困難な中、進路課を中心に系統的なキャリア教育計画を作成し、各学年ともキャリア教育をより一層充実させる。また、授業や放課後講習等で『Classi』を活用するとともに、1年生では新たに論理言語力検定『Literas』を実施し、進路達成を支える学力等を養成する。

#### ○富澤学園ブランド力の強化

富澤学園を構成する校園のブランド力を向上させるため、4月より校名を「東北文教大学山形城北高等学校」と改める。大学・短大との連携については、特に「キャリア探究コース」における幼児教育系、福祉系において、卒業後の進路選択に直結することを踏まえ、魅力的なプログラムを検討、実施する。コロナ禍にあつて、中学生が幼稚園等で職場体験する機会を失い、結果として幼児教育系への進路希望者が減っていくことが懸念されることから、幼稚園・高校・大学短大、そして敬愛信の会の運営する保育園等の協力を得て、その機会を提供する。また、学園創設100周年に向けた準備を推進する。

#### ○定員充足率向上

2019年度に少子化の進行を踏まえて募集定員の適正化を図ったが(420名➡340名)、不断の努力と学校改革等により評価が高まり、2021年度、2022年度の2か年に渡り定員を超える入学者が確保でき、生徒数では県内一となっている。経営健全化対策で実施した入学者確保対策の取り組み内容の実効性と成果を検証し、必要となる対策の検討を行う。その上で、今後も「専願志願者数300人」を目標に取り組んでいく。広報活動については、分かりやすく興味を引く学校案内や動画の作成、ホームページの更新、各種メディアへの掲載等積極的な情報発信に努める。また、募集活動における丁寧かつ真摯な対応を基盤として、中学校及び受験生・保護者との信頼関係構築に力を入れる。



○教育環境の充実・整備

2022年度は特進科棟の高速通信環境の整備と第2駐車場の改修、野球部照明設備など部活動等充実のための設備・備品等の充足を行う。また、新グラウンドの整備に向けた調査、準備を行う。

## 【4】東北文教大学付属幼稚園の事業計画

### ○教育内容充実のための取り組み

付属幼稚園としての特色や強み及び開園以来 50 年以上にわたり積み重ねられた教育実践の蓄積を活かし、創意工夫を重ねながら教育活動の充実に取り組んでいく。

質の高い保育の維持向上のため、月一回の定期的な教育研究の時間を設け、カリキュラム・マネジメントの定着を目指していく。

今年度開催される「東北地区私立幼稚園教員研修大会」の分科会担当園という研鑽の機会に恵まれており、講師の直接的な指導や他園教諭との積極的な意見交換により、良質なアドバイスと実践的な好事例を得て、改善や質の向上につなげていく。

### ○保護者との連携

ホームページの充実を図り、日常の子ども達の様子や、行事の様子を写真や動画で発信することで、保護者の安心感や信頼感につなげていく。

子どもの日々の成長を記録した連絡帳での報告を継続して実践する。写真や担任の記録により、丁寧に保護者に情報発信することで信頼関係を深めていく。

保護者との連絡方法に ICT を導入、相互にスピーディーかつタイムリーな情報の伝達方法を取り入れることで、更なる連携強化を図る。

### ○定員充足率向上

経営健全化対策で実施した入園者確保対策の取り組み内容の実効性と成果を検証し、必要となる対策の検討を行う。

増台した送迎バスを活用し本園のPRを積極的に行い、入園者の手薄な山形市北部地区の開拓を強化する。また、1歳から5歳までの乳幼児を対象に行っている地域提供事業「ちびっこひろば」を今年度も継続開催し、本園ならではの取組みをPRすることで園児確保を目指す。

早朝と夕方の預かり保育時間の延長や3歳未満児の受入等、保護者のニーズに合致した園の運営を検討していく。

ホームページの動画等を通して、下記の本園の特色ある教育を発信していくとともに、定期的な内容の更新により、本園の魅力を発信していく。

- ① 子どもの「主体的な遊び」を大切にした教育の推進
- ② 預かり保育においても質の高い保育の充実
- ③ 豊かな食事を通じた「食育」の推進
- ④ 自分の健康を自分でつくる「健康教育」の推進

### ○富澤学園ブランド力の強化

付属幼稚園としての魅力である大学・高校との密接な連携を PR し、教育実習や保育体験学習など、他園に無い良さを打ち出していく。

豊かな「食育」・「健康教育」の推進を継続する等、日常の質の高い保育内容を県内外に発信できるよう、教育内容の更なる充実を図り、ブランド力を高めていく。

### ○教育保育環境充実・整備

今年度開催される東北地区私立幼稚園教員研修大会分科会担当園として、園児のより良い保育環境を整備するためのウッドデッキの導入と、質の高い保育の実施及び研究を推進していくために、教育保育用備品等の充実を図る。